

令和6年度第2回一関図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第2回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和7年3月27日（木）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
 - (1) 委員 山村淳委員、都澤喜久子委員、金安信委員、金里徹委員、菅原夏希委員、鈴木宏委員、鈴木純香委員、佐々木香委員、菅原慶子委員、岩本智美委員、那須照市委員（会長）、阿部利彦委員、千葉哲夫委員
 - ※欠席者 二階堂美恵委員、玉澤万里子委員、吉瀬献策委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、佐藤和子大東図書館長、千葉浩千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、千葉伸室根図書館長、菊地和哉川崎図書館長、梁田潤藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、西村ミドリ一関図書館副館長兼資料サービス係長

5 議題

- (1) 令和6年度一関市立図書館事業報告（進捗状況）について
- (2) 次期一関市立図書館振興計画策定スケジュールについて
- (3) 令和7年度事業計画の策定について（諮問事項）

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 挨拶

(1) 時枝教育長

図書館協議会は、図書館法で「図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする」とされている。一関市図書館協議会は地域の実情を踏まえ、利用者および住民の皆様の要望を十分に反映した図書館運営に努めるため設置したものである。

図書館は、教育、特に社会教育の面でも重要な教育施設である。

一関市教育委員会の教育振興基本計画、これは10年間の教育の方向性を描いたものであるが、一貫して第一に挙げているのは「ことばの力を育てる」ということ。「ことばの力」に一番密接に結びつくのは読書、そして図書館であると考えている。

一関市立図書館でもこれを目指し、色々な事業を展開している。中でも、蔵書数は百万冊を超え、全国の類似する自治体では、全国1位である。

人口減少が続く一関市にあっても、この蔵書100万冊が市民の身近なところで、手に取って読める読書環境の中で文化的生活を送れるような図書館環境が必要であり、市内の要所に8館と移動図書館車により市内全域へ本を届け、読書を普及する活動を続

けていくことを私たちは目指していくべきであろうと思っている。

来年度は一関市立図書館振興計画のまとめの年であり、教育振興基本計画や、一関市立図書館振興計画も新たに策定する大切な年度になる。

本日は、来年度に策定を予定している次期一関市立図書館振興計画のスケジュールや、事業計画の諮問もあることから、色々議論いただき、いただいた御意見を元にししながら、図書館運営に努めていきたい。

(2) 那須照市会長

教育長の挨拶に尽きるが、今回は今年度のまとめとともに、来年度の計画、また、次期一関市立図書館振興計画の策定について諮問されることから、皆様には図書館利用が活発になるよう、忌憚のない御意見を積極的に出していただければありがたい。

9 諮問

一関図書館長から会長に対し、図書館法第14条第2項及び一関市図書館条例施行規則第16条の規定により、令和7年度事業計画の策定について諮問した。

10 審議内容

(1) 令和6年度一関市立図書館事業報告（進捗状況）について

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

(2) 次期一関市立図書館振興計画策定スケジュールについて

資料に基づき事務局から説明を行った。質疑等なし。

(3) 令和7年度事業計画の策定について（諮問事項）について

資料に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 「令和7年度の具体的な取り組み」のうち、「図書館利用が困難な方へのサービス」について、自分は多文化共生のNPOに携わっており、このような表記が盛り込まれたということは非常に喜ばしいことだと思う。

先日、日本語教室の生徒とともに一関図書館に訪問し、利用者カードを作ってもらった。一関図書館には英語で対応できる職員もおおり、カードの作成は非常にスムーズであった。

このような環境を充実するとともに、利用者カードを作る場合は日本人の支援が必要となる。その役割は雇用主か、我々の立場の者になるかと思うが、利用者カードを進んで作ろうという動きになればいいと思う。

委員 「具体的な取り組み（7）運営」の「関係施設との連携を強化」については、事業報告や各地域図書館運営協議会の会議録を見ても、これまでも各館で取り組んでおり、その継続性がうかがえる。

今後検討していただきたいこととして、「具体的な取り組み」について、全体と各館の整合性が薄いところがある。具体的には、市立図書館全体での「図書館利用が困難な方へのサービス」について、各館の状況を見ると表記している館が2か所のみであったことから、全館で表記があればいいと感じた。

また、全体の「郷土資料（地域・行政資料）」の取組について、対象が児童・生徒と明記されており、また、内容について防災・減災と記載されている。具体

的に各館でどのように取り組むか記載があったのは1つの館だけであったことから、整合性の観点から表記してはいかがかと感じた。

委員 千厩図書館の老朽化・狭隘化については、昨年に緊急対応の工事を行っていた感謝するが、課題を抱えている館であり、これからも要望を出していきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

委員 児童へのサービスの「複本の購入や利用頻度の高い資料の買替え」について、各学校でいつも読書推進員が図書館から本をたくさん借りてきてもらうと、子ども達の学習が深まる。各学校で同じ時期に同じような学習を進めていくので、複数の本が必要となることから、充実していただくとありがたい。

郷土資料については、一関市にかかわらず、人口が減っていく中で、子どもたちに自分たちの故郷の良さを伝えていくことは大事であり、その本を通して自分のまちを好きになり、そのまちに役立ちたい、戻って来たいと思ってもらえるよう繋げられればよいと考える。

委員 室根地域の移動図書館車サービスについて、令和7年度から試験運行が始まるということで期待している。令和7年度は小学校だけであるが、室根地域は中心地から離れている場所が多く、図書館に来館できない方々が多いことから、将来はそういった地区でもサービスが受けていただけるようになればよいと考えている。

委員 川崎図書館運営協議会では、図書館施設の改修が進み、前にもまして快適な読書環境を提供いただけており非常に喜ばしく、また移動図書館サービスについても好評であるという意見が相次いだ。

委員 毎月、地域情報誌を発刊しており、図書館資料を活用している。「読書環境の充実」について、現在一関市ではDXを推進していることから、本の検索に当たりAIの導入を検討願ひたい。またAIを導入することで、外国人が利用しやすい環境の構築に当たり言葉の壁が薄くなるかもしれない。

委員 就労支援に携わっている立場で感じることとして、今の時期は就職や進学で離れる子どもが多く、一時的に人口が少なくなるが、小さい頃から故郷の良さに触れられるような取組を続けていただきたい。

また、就労体験については一関図書館に毎年協力いただけており、引き続き協力をお願ひしたい。

委員 障がい者の就労支援を行っている立場として、障がいがあっても読みたい本は沢山あり、点字や録音図書、電子図書も有効に活用できると思う。特に録音図書は、障がいのある方だけではなく高齢の方でも活用する機会が増えるといいと思っており、さらなる充実をお願ひしたい。また、当方の勤務している施設内に小さな図書館があり、障がいのある方々が本を借りるのだが、返却時に破損、汚損がある。その状態でもそのまま受け取り、きれいにしてまた貸出しする。その場合、一度破れた本、汚れた本ということで、逆に気軽に借りていく。市立図書館には立派な本が置かれていることから貸出しを躊躇する面があるが、そう

いった面で気軽に借りることのできる本のコーナーもあると嬉しい。

委員 学校図書館支援の観点からお話をすると、他地域から一関市に異動してきたのだが、一関の子たちはいい本を読む、という印象がある。学級文庫への貸出しを月1回受けており、クラスの図書委員が自分たちのお勧めの本を選んで教室に置くという取組を行っている。他の地域の中学校だと自分の好きな本しか読まない子が多い中、この本を読んでもみようかという感じになり、面白い本への窓口が開かれていると感じる。

学校では1人1台タブレットの貸出しがあり、以前よりネットの調べものは便利になったものの、一関の場合タブレットの規制があり、漫画・アニメなどの娯楽や宗教については規制がかかって閲覧できない。平泉も宗教の規制のためか、閲覧できないケースが多い。その分野の本が充実してくると、先生方も利用しやすいかと思う。

委員 令和6年度事業を個別にみると、かなりの事業を行っているし、職員が仕事の合間を縫って色々なアイデアを出したり、古本市を行うなど、アイデアと実行力、企画力が素晴らしい。「令和7年度の具体的な取り組み」の案は、表記の問題とか書き方の問題に関わると思うので、是非今まで実施してきた企画展や行事などに対し、自信を持って取り組んでいただきたい。

また、令和6年度の利用状況報告書について、前年度比でマイナスの数値が気になり、自分なりに調べてみたが、貸出冊数について一関市の人口で割ってみると、人口1人当たり5.56冊となる。この数値が高いか低いかについてだが、ある大学の先生が人口の規模の異なる3都市を挙げて比較したところ、17万人規模の浦安市で12.4冊、6万人規模の塩尻市で9.7冊、80万人規模の堺市では5.8冊。一関は頑張っているのではないかと思った。

一方、人口密度から見ると、狭い都市地域に人口が密集していれば、図書館に行くのは簡単。一関は、児童の巡回貸出はプラスだが、本館がマイナスだった。やはり、図書館から遠い場合なかなか足を運ぶことが難しい。先ほどの浦安市は人口密度が1平方キロメートル当たり9,386人。堺市は1平方キロメートル当たり5,371人。1平方キロメートル当たり塩尻市が226人。そして一関市は1平方キロメートル当たり82人。広大な市域にあって図書館に足を運ぶということを考えると、やはりこの貸出冊数は頑張っていると思った。

委員 業務で小学校におり、学校図書館の様子を見てみると、子ども達は本が大好き。しかし、読む子はたくさん読むが、読まない子は1冊だけというギャップが大きい。読まない子の底上げが大変だと思う。

「令和7年度の具体的な取り組み」について、各館とも記載するのは大変だったと思う。図書館協議会の委員になって、図書館のことを新聞などのマスコミで見ると、それぞれの館長は頑張っている。しかし館長も2年や3年で代わると聞くと、新たな館長がその個性を出して取組を続けてほしい。

委員 ただいま各委員から出された意見及び本日の資料に記載されている内容を見

るとすばらしいものだと思うので、この通り進めていただきたい。

委員 先ほど、委員から古本市のことについて発言があったが、千厩図書館では図書館職員ではなく、応援する会の事業として取り組んでいる。

委員 図書館があって、それを応援する人たちが増えると、ますます図書館が盛り上がる。説明に感謝する。

会長 今日皆さんからいただいた意見をまとめたものを資料として事務局が作成して、次回の図書館協議会において配布する予定である。

(4) その他

令和7年度一関市予算の内容、市立図書館カレンダーについて、事務局から説明を行った。質疑等なし。

11 担当課 一関図書館